



聖火の誕生

パリ 1924 大会までは聖火はありませんでした。オランダ・アムステルダム 1928 大会の際に、スタジアムの外に設置した塔に火を灯し続けるということが契機となって、現在のよう聖火が誕生しました。



聖火採火式

聖火はギリシャ・オリンピアのヘラ神殿前で行われる聖火採火式で採火されます。凹面鏡で太陽光を集め聖火を採取し、第一走者に引き渡され、ギリシャ国内をリレー後、開催国へ運ばれます。東京 2020 オリンピックでは、2020 年 3 月 12 日にギリシャで採火式が行われ、日本には 3 月 20 日に宮城県の航空自衛隊松島基地に聖火が到着する予定です。



聖火リレールート

東京 2020 オリンピック聖火は、2020 年 3 月 26 日に福島県楡葉町・広野町の「ナショナルトレーニングセンター」ヴィレッジ」を出発し、121 日間（移動日を含む）をかけて全国 47 都道府県を巡ります。埼玉県では、7 月 7 日～9 日の 3 日間で聖火リレーが行われます。

7/7(火)～7/9(水)

県内のリレールート

3 日目

2 日目

1 日目

▶1日目 7月7日(火)

①川口市②蕨市③戸田市④和光市⑤朝霞市⑥新座市⑦日高市⑧狭山市⑨富士見市⑩三芳町⑪ふじみ野市⑫所沢市

▶2日目 7月8日(水)

①草加市②八潮市③三郷市④吉川市⑤越谷市⑥秩父市⑦皆野町⑧長瀬町⑨春日部市⑩杉戸町⑪宮代町⑫久喜市⑬加須市⑭行田市⑮熊谷市

▶3日目 7月9日(木)

①川越市②鶴ヶ島市③坂戸市④本庄市⑤深谷市⑥嵐山町⑦東松山市⑧滑川町⑨鴻巣市⑩北本市⑪桶川市⑫上尾市⑬さいたま市

※ルートは今後変更となる場合があります。

聖火リレーのように家族三世代でつながる鈴木さん一家。孝児さん(写真左)は、三芳町体育協会会長を 4 年務め、町の体育やスポーツの発展に尽力されてきました。



世界とつながる、七夕の日。
**世界が三芳を
駆け抜ける。**

20200707 TUE

ギリシャから引き継がれてきたオリンピック聖火リレーが、2020 年 7 月 7 日に三芳町で実施されることになりました。今月の特集では三芳町とオリンピック・パラリンピックの「つながり」を紹介します。

町では、昨年 4 月からオランダ女子柔道チームのホストタウンとして、淑徳大学と協力し、町を挙げてオランダとの交流事業を進め、東京 2020 大会への気運醸成を図っています。

今月号の特集は、オランダのホストタウンであり聖火リレーが通る三芳町とオリンピック・パラリンピックの「つながり」。世界とつながる三芳町が、東京 2020 大会に向けて盛り上げるための情報をお届けします。

東京2020の気運醸成

さて、聖火は新国立競技場の聖火台へ運ばれて行きます。

沿道で声援する人、携わるスタッフなど関わるすべての人が聖火リレーの主役。全国を回り、喜びや情熱を伝えながら、東京 2020 大会への期待と夢をのぐルートです。

聖火に期待と夢をのせて

来年 7 月 7 日の七夕の日、東京 2020 オリンピック聖火リレーが県内を通る 3 日間の初日に三芳町で実施されます。

ギリシャで採火された聖火を富士見市から受け継ぎ、三芳町を駆け抜け、ふじみ野市へつなぐルートです。

オリンピック聖火は「平和・団結・友愛」といったオリンピックの理想を現し、関心と期待を呼び起こす役割を持っています。



鈴木孝児さんが会長を務める藤久保中央通り商店会が設置した世界地図。